

令和6年度 第1回学校運営協議会 議事録

掛川特別支援学校御前崎分校

1 日 時 令和6年7月3日(水) 午前9時30分から11時まで

2 会 場 池新田高等学校 本館 小会議室

3 参加者

【委員】	木下 裕義 様	【学校】	校長
	水野 浩三 様		副校長
	漢人 隆弥 様		高等部主事
	河田 裕子 様		教務課長

4 内 容

(1) 開会

(2) 校長挨拶

お忙しい中ありがとうございます。皆様からいただいた意見等は、学校運営に生かしていきますので、経営計画に対して忌憚のない御意見をお願いいたします。

・配付資料等の確認(副校長)

① 任命状 ② 学校経営書 ③ 学校要覧 ④ 差替え資料1枚 ⑤ 封筒

(3) 委員紹介(司会:副校長)

(木下委員) 4月に赴任して3か月がたった。ライオンズクラブに所属しているため、地域の活動に携わっている。そのため、いろいろな人と顔見知りになってきた。家庭には、子どもが3人おり、多感な時期のため、いろいろと参考にさせていただきたい。

(漢人委員) 御前崎市スポーツ協会の事務局長をしている。中学校の元校長であり、教員生活の半分以上を地元で過ごしている。池新田高校は母校である。御前崎市教育委員会にいたことがあり、御前崎市観光協会や御前崎市商工会にも話をするので、大産業まつり関連ではお役に立てるかもしれない。

(河田委員) P T A会長河田です。一年間よろしくお願いします。

※産業現場等における実習の初日挨拶のため、少々遅れる。

校長、副校長、高等部主事、教務課長が順次、役職と名前を伝える。

(4) 協議

ア 令和6年度学校経営計画案(校長)

学校経営書の2ページ目より、学年別在籍人数3学年36人でスタートしている。職員数は27人(校医含む)であり、教職員は20人。3ページの生徒の状況としては、自閉症や染色体異常、知的障害のある生徒が通学する特別支援学校である。近隣の御

前崎市、菊川市、掛川市、牧之原市より通学している。4 ページの学校経営計画より、校訓は「元気 笑顔 夢の実現」であり、「元気に笑顔で、夢の実現をする、夢の実現とは進路希望を実現する」ということである。学校教育目標は、「いきいき学び 地域と共に よりよく生きる人を育てる」。これらは、いきいき学びが、学習指導要領にある主体的、対話的で深い学びとリンクし、子どもたちが常に元気で主体的に学ぶということであり、地域と共に、学校生活が充実し、人・もの・ことに主体的にかかわるということで、よりよく生きるは、日々の学びを充実させ、卒業後に豊かな生活を送ることである。目指す生徒像は、常に意識して子どもたちを指導していく。

学校教育目標を具現化する柱として、アの専門性は一人一人の教育的ニーズに応じ、確かな成長・発達を支える専門性の充実、イの安全・安心は、人権の尊重と安全・安心な教育環境と学校体制と教育の充実を目指している。ウの連携は、家庭や地域、関係機関等との連携信頼関係や協働体制の充実を図る。さらに、アの専門性では学習指導要領を基本とした授業の専門性を目指していくが、教職員の安全安心も大切にするため、月 45 時間以内の時間外勤務時間を守っていききたい。これらは、教員が最大限に力を発揮できるようにと考えている。イの安全・安心は、大雨等、想定外の出来事について対応していく。そして、教職員、生徒の人権を大切にすることは太字にはしていないが、必須のことである。ウの連携は、地域ぐるみで生徒を支えていくために連携をさせていただきたい。また、地域資源として、ものやことを利用し、活かした実践や発信をしていく。地域で学び、地域に帰っていくようにしたい。

<質疑応答>

特になし

・学校経営計画案補足（副校長）

スライドの写真は、入学式に飾った池高と分校の花を玄関に飾ってくれたときの写真で、両者が寄り添っていることが、両校の共生・共育を表しているように感じている。専門性では、研修テーマを「自分事として課題と向き合い、解決していこうとする態度を育成する作業学習」とし、自分の課題をどうとらえるか、社会に出ていくために自分はどのようなかなどを作業学習で身に付けていってほしい。職員の心理的安定に関しては、話しやすさ、助け合い、挑戦、新奇歓迎の因子の中から、1 学期間は話しやすさを追求している。月 45 時間を超えた職員について、4 月は 7 人程度、年度初めの業務が多い時期と分析している。5 月は 1 人、6 月は 3 人、産現実習があり、朝夕の連絡で多少増えたと分析している。安全・安心については、教育環境の整備と未然防止、有事の危険防止、連携については、地域関係機関との協働、共生・共育については、地域共生ということで、御前崎市、菊川市、牧之原市、掛川市の地域とつながっている。

分校の教育活動は、しぶき祭、大産業祭り、市役所販売会を軸として、その間に産業現場等における実習が入ってくる。1 学期に学んだモノづくりの技術や販売までの流れを活かした大産業祭を中心に、市役所販売会は 100%生徒主体で 1 年間の学習の

成果をねらっている。

・補足説明を含めた学校経営に関する質問（副校長）

（木下委員）安全・安心ということで安全への配慮や取組について、健康というところがキーワードになっていると思う。健康づくりに関して発信しているところを教えてください。

（高等部主事）健康観察カードをもって学校に来る。検温と気持ちの健康度を10段階で自己評価している。その中で担任とやり取りをしている。体力づくりは15分間走を行っている。8時間働く体力をつけるため、個々の体力の状態に応じた目標をもって行っている。保健体育の授業では、熱中症の学習も行っている。

（木下委員）月45時間以内の残業について、どのような改革していくか。仕事の改善、業務量について、現在取り組んでいることを教えてください。

（副校長）時間外勤務時間の削減を進めた時点では、持ち帰りが一時的に増えたと思うが、現状は少なくなったと思う。些細なことではあるが、産現実習の巡回指導の報告について、口頭報告を簡略化し、報告書で詳細を報告するように改善した。掲示板の表記法に工夫をし、一目で見られるようにひと手間加えた。

（校長）会議の精選、教育課程の見直しなど全てやりたいと思っているが、12年間で子どもを育てることを大切に、他学部との関連で重複することに関しては目標を絞っていくことが大事だと考えている。

（副校長）反対に企業としては、どのような取組が必要だと思われるか。

（木下委員）子どもがいるので、思い切った見直しは難しいと思うが、省けることを省くことが第一歩。先生たちの声を拾うことも大切なのでは。コミュニケーションを積極的に取り入れるワークライフバランス（ライフを先にせずに）にしたい。

（漢人委員）自分が中学校に勤務している頃より、働き方改革が進んでいる。しかし部活動の地域移行が子どもにとって本当に良いのかなとも思っている。教員の数を増やすことができれば一番良いと思う。地域移行をすれば教員の負担は減るが、15年先を見るとどうか、3、4年で元に戻るという見方もある。先生方に心のゆとりがないと共育することは難しいと思う。心の悩みで休む先生が増えている。心理的安定の部分の柱にやってほしい。中学校も休職する先生がいると聞いている。補充するための講師がいないので、周りの教員に負担がかかる。小学校は教科による指導ではないが、中学校は教科があるので、教科によって講師が不足している。元校長が3つの小学校を掛け持ちで勤務している。

（副校長）企業は休職する社員がいるのか。

（木下委員）会社でも休職する社員が増えてきている。まだ始めて間もないが、未然に防ぐようにしている。

（河田委員）分校に来て2年。本校にもいたが、分校に来て、先生たちがしっかり向き合ってくれるのでありがたい。（子どもは）学校に来やすい。最初のころ、落ち込んでいることもあった。家庭で聞いても言わない。コミュニケーションを増やして

いった方がよいと思った。2年になり、実習期間が延びて、不安なこともあるが、家庭で励まして2週間を支えていきたい。体力的にもできていないこともあるが、規則正しい生活をして体力が増すように努めたい。

イ 教育活動（高等部主事）

学部目標は、「働く力」と「よりよく生活する力」を身に付ける、と社会自立を目標にしている。通学地域は御前崎市、菊川市、牧之原市、掛川市の4市であり、御前崎市の行政とも連携をとっている。ホームページは毎日更新しているので御覧いただきたい。今年度も御前崎市の農林水産課と連携し、干し芋用の芋のつる挿しをしたり、やまもも保育園や高齢者施設での交流をしたりした。交流の際には、事前学習で大型絵本の読み聞かせを練習していた。そして、事後学習では交流当日の気付きを伝え合い、振り返りもきちんと行った。池高との共生・共育では、しぶき祭での作業製品の販売、浜岡総合運動場での体育大会、砂丘マラソン大会、授業交流、分校作業学習における合同学習などを行っている。地域活動として、毎月10日のスクラムグッドマナー、近隣の事業所で活動をさせていただく地域作業などがある。外部講師の活用として、ビルメンテナンス（清掃）や革工芸の講師に技能面の指導を受けている。スライドは、過去の卒業生の進路先をまとめた円グラフである。

<質疑応答>

（木下委員）いろいろな地域での活動に関して生徒の反応はどうか。

（部主事）高齢者交流や幼児との交流は、家庭科の授業で学習をし、幼児の遊びや大型絵本の読み聞かせなどを練習したが、とても疲れたと言っていた。高齢者体験では、高齢者の生活の大変さを学んだが、思っていたよりは元気だったという感想だった。

（副校長）知的障害教育の根本は、实际的、体験的な活動が主である。

以上が、令和6年度の学校経営計画案です。

（校長）この計画案に沿って教育活動を実施していくことに承認いただきたい。よろしいか。

（委員全員）うなづきの仕草にて、承認を示した。

(5) 学校参観

（木下委員）作業は私たちでは（あのように）できない。すごい強みを持っている。

（漢人委員）年2回、授業参観をしている。毎回、よく頑張っていると感じている。

(6) コンプライアンスについて

（副校長）セクハラ、職場の雰囲気づくり等、テーマをもって進めている。学年会を活用したグループワークを行い、他者の価値観を共有する機会としている。多様な考え方を受け入れることがハラスメント防止への一歩だと、何気ない一言が相手を傷つけることを意識している。

(木下委員) 管理職が苦慮している。受け手の取り方によって発した言葉が異なる。結局はコミュニケーションを深めることが大事かと思う。

(7) 連絡事項

(副校長) 第2回は令和7年2月5日の午前9時30分から、この小会議室で行う。
主な内容は、学校経営計画の評価である。

(8) 閉会